



第36回 愛媛形成外科研修会

抄録集

日 時 平成 27 年 11 月 21 日 (土) 17 時 00 分～
場 所 HITO 病院 3F 大会議室
愛媛県四国中央市上分町 788 番地 1
TEL: 0896-58-2222

当番世話人 HITO 病院 形成外科 田中 伸二

第36回 愛媛形成外科研修会

研修会について

1. 参加受付は、16時30分より会場で行います。
2. 参加費として2,000円を受付にて申し受けます。
3. 演者でまだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. Section I・IIでの討論時間は、一題あたり3分～5分を予定しております。
5. PCはWindows7、Power Point 2010を使用しての発表になります。
(当日は、USBメモリーあるいはPC本体を持参して下さい。)

会歴

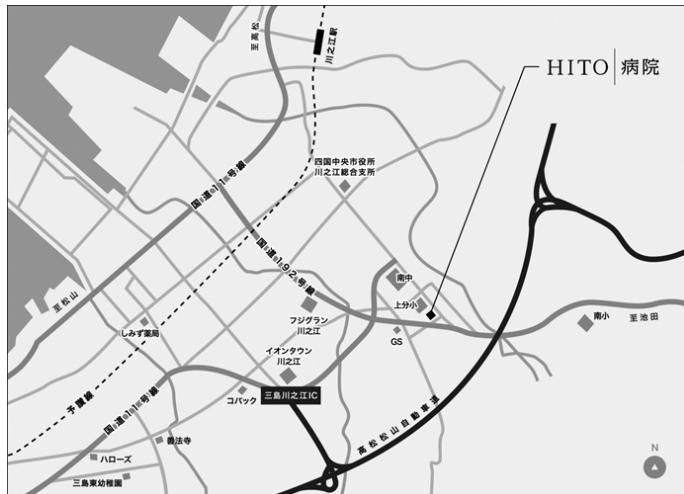
| 会期 | 世話人 | 会場 | 日時 | 参加者 |
|------|-------------------------------|-----------------|-------------|-----|
| 第1回 | 河村 進 (四国がんセンター 形成外科) | 松山成人病センター | 平成10年7月4日 | 15名 |
| 第2回 | 小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科) | 愛媛県医師会研修所 | 平成10年12月5日 | 17名 |
| 第3回 | 中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班) | 松山成人病センター | 平成11年6月19日 | 20名 |
| 第4回 | 河村 進 (四国がんセンター 形成外科) | 四国がんセンター 会議室 | 平成11年11月27日 | 19名 |
| 第5回 | 小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科) | 四国がんセンター 会議室 | 平成12年6月24日 | 17名 |
| 第6回 | 中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班) | 四国がんセンター 会議室 | 平成12年12月9日 | 20名 |
| 第7回 | 河村 進 (四国がんセンター 形成外科) | 四国がんセンター 会議室 | 平成13年6月23日 | 23名 |
| 第8回 | 小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科) | 四国がんセンター 会議室 | 平成13年12月8日 | 23名 |
| 第9回 | 中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班) | 四国がんセンター 会議室 | 平成14年6月8日 | 27名 |
| 第10回 | 河村 進 (四国がんセンター 形成外科) | 四国がんセンター 会議室 | 平成14年12月14日 | 27名 |
| 第11回 | 小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科) | 四国がんセンター 会議室 | 平成15年6月28日 | 25名 |
| 第12回 | 中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班) | 四国がんセンター 会議室 | 平成15年12月13日 | 25名 |
| 第13回 | 河村 進 (四国がんセンター 形成外科) | 四国がんセンター 会議室 | 平成16年6月26日 | 26名 |
| 第14回 | 小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科) | 四国がんセンター 会議室 | 平成16年12月4日 | 29名 |
| 第15回 | 中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班) | 四国がんセンター 会議室 | 平成17年6月18日 | 31名 |
| 第16回 | 河村 進 (四国がんセンター 形成外科) | 四国がんセンター 会議室 | 平成17年12月10日 | 35名 |
| 第17回 | 小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科) | 四国がんセンター 研修室 | 平成18年6月24日 | 31名 |
| 第18回 | 中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班) | 四国がんセンター 研修室 | 平成18年12月9日 | 26名 |
| 第19回 | 河村 進 (四国がんセンター 形成外科) | 四国がんセンター 研修室 | 平成19年6月16日 | 37名 |
| 第20回 | 小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科) | 四国がんセンター 研修室 | 平成19年12月15日 | 30名 |
| 第21回 | 中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班) | 四国がんセンター 研修室 | 平成20年6月14日 | 30名 |
| 第22回 | 庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科) | 四国がんセンター 研修室 | 平成20年12月6日 | 30名 |
| 第23回 | 河村 進 (四国がんセンター 形成外科) | 四国がんセンター 研修室 | 平成21年6月27日 | 32名 |

| | | | | |
|------|-------------------------------|--------------------------|----------------|-----|
| 第24回 | 小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科) | 四国がんセンター 研修室 | 平成 21年 12月 12日 | 28名 |
| 第25回 | 中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班) | 四国がんセンター 研修室 | 平成 22年 6月 19日 | 34名 |
| 第26回 | 田中 伸二 (石川病院 形成外科) | 四国がんセンター 研修室 | 平成 22年 12月 11日 | 30名 |
| 第27回 | 河村 進 (四国がんセンター 形成外科) | 四国がんセンター 研修室 | 平成 23年 6月 18日 | 31名 |
| 第28回 | 小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科) | 四国がんセンター 研修室 | 平成 23年 11月 26日 | 25名 |
| 第29回 | 庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科) | えひめ共済会館 4階 末広 | 平成 24年 6月 23日 | 34名 |
| 第30回 | 中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科) | 四国がんセンター 新棟 3階研修室 | 平成 24年 12月 1日 | 26名 |
| 第31回 | 田中 伸二 (HITO病院 形成外科) | 四国がんセンター 新棟 3階研修室 | 平成 25年 6月 22日 | 36名 |
| 第32回 | 河村 進 (四国がんセンター 形成外科) | にぎたつ会館 2階 楓の間 | 平成 25年 11月 30日 | 30名 |
| 第33回 | 安井 史明 (住友別子病院 形成外科) | 四国がんセンター 新棟 3階研修室 | 平成 26年 6月 21日 | 32名 |
| 第34回 | 小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科) | 愛媛県立中央病院 新館カンファレンス会議室 | 平成 26年 11月 29日 | 32名 |
| 第35回 | 中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科) | 四国がんセンター 新棟 3階研修室 | 平成 27年 6月 27日 | 36名 |
| 第36回 | 田中 伸二 (HITO病院 形成外科) | HITO病院 3階 大会議室 | 平成 27年 11月 21日 | |

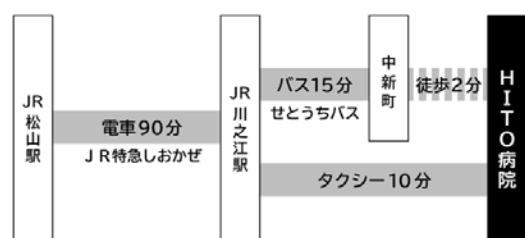
HITO 病院

愛媛県四国中央市上分町 788 番地 1 TEL: 0896-58-2222

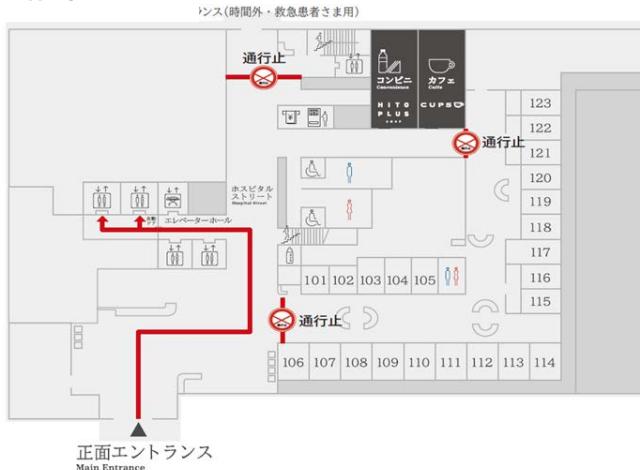
会場へのアクセス



| | |
|----|---|
| 鉄道 | JR予讃線・川之江駅よりタクシー10分 |
| バス | せとうちバス中新町停留所・徒歩2分 |
| 車 | 三島川之江I.C から池田方面へ 10分 三島川之江I.C から最初の交差点を右折(11号線川之江三島バイパスへ)し、 大きい交差点(有限会社タカハシサービス機器様が左手にあります)を右折、 直進してサークルKサンクスを超えて左手に駐車場入り口が見えます。 |



1階案内図



3階案内図



プロ グ ラ ム

Section I (17:00~17:40) 座長： HITO病院 大川勝正 先生

1. 当科における乳児血管腫 (Infantile Hemangioma) の治療方針 (5分)
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 中岡 啓喜 他
2. 男性外陰部リンパ浮腫の罹病期間の違いによる LVA 効果の検討 (5分)
愛媛県立中央病院 形成外科 石野 憲太郎 他
3. 尿膜管遺残により麻痺性イレウスを生じた1例 (3分)
住友別子病院 形成外科 安井 史明 他
4. 乳腺相似分泌癌の1例 (5分)
徳島大学 形成外科 岡部 寛 他
5. 鼻根部 dermoid cyst の一例 (5分)
四国こどもとおとの医療センター 佐々木健介 他

Section II (17:40~18:20) 座長： 四国がんセンター 時吉貴宏 先生

6. 指尖部完全切断に対する Composite Graft の一例 (5分)
HITO病院 形成外科 米田 武史
7. 左前胸部に発生した plaque-like dermatofibrosarcoma protuberans の1例 (5分)
松山赤十字病院 形成外科 山崎 裕行 他
8. Malignant melanoma of soft parts の1例 (3分)
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 森 秀樹 他
9. 仙骨部褥瘡に対して局所陰圧閉鎖療法と穿通枝皮弁を使用し軽快した1例 (5分)
愛媛県立中央病院臨床研修センター 形成外科 原 和也 他
10. 有茎腹直筋皮弁による乳房再建後に drawstring 法を用いて内側乳房下溝を再建した一例 (5分)
独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 形成外科 時吉貴宏 他

総会 (18:30~18:45)
特別講演 (18:45~19:45) 座長： HITO病院 形成外科 田中伸二 先生

「形成外科の過去と未来」

講師： 田岡病院 形成外科・創傷治癒センター長 中西秀樹 先生

共催： 松山形成外科医会、愛媛県医師会形成外科医会

Section I (17:00~17:40) 座長： HITO病院 大川勝正 先生**1. 当科における乳児血管腫 (Infantile Hemangioma) の治療方針**

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○中岡啓喜 森秀樹 戸澤麻美 三宅啓介 村上達郎

(5分)

当科で行っている乳児血管腫の治療について報告する。

過去、現在の治療方針について具体的に報告し、将来の治療法について言及する。

2. 男性外陰部リンパ浮腫の罹病期間の違いによる LVA 効果の検討

愛媛県立中央病院 形成外科

○石野憲太郎 小林一夫 中川浩志 浜田裕一 徳永和代 尾崎絵美

(5分)

男性外陰部リンパ浮腫は羞恥心等により保存的治療が軌道に乗らないことが多い。また、自覚症状のみで形態変化を伴わない時期に医療機関を受診しても経過観察を指示され、結果的にその後大きな形態変化を伴う状態に至るまで医療機関を受診しないこともある。そこで浮腫顕在化からLVAまでの期間が異なる3例を比較し、治療効果を比較することにより早期LVAの有用性を検討したので症例を供覧し報告する。

3. 尿膜管遺残により麻痺性イレウスを生じた1例

住友別子病院 形成外科

○安井史明 濱田龍正

(3分)

症例は34歳男性、既往にアトピー性皮膚炎あり。尿膜管遺残への感染に対して外来にて経過観察していたが、炎症所見の増悪のため入院加療を開始した。入院中に嘔吐を認めたためCT再検したところ麻痺性イレウスを認め、絶食補液にて保存的に加療した。尿膜管遺残によるイレウスの合併は稀であるが、近年報告が散見され注意が必要であると考えられる。

4. 乳腺相似分泌癌の1例

徳島大学 形成外科

○岡部寛 柏木圭介 安倍吉郎 峯田一秀 山下雄太郎 戸田皓大 福永豊 長坂信司 松村辰彦

橋本一郎

(5分)

43歳男性。5年以上前から徐々に増大する右耳垂下部皮下腫瘍を主訴に受診。右耳下腺腫瘍と診断し耳下腺腫瘍摘出術を行い、病理診断は乳腺相似分泌癌であった。比較的新しい疾患概念であり、文献的考察を加えて報告する。

5. 鼻根部 dermoid cyst の一例

四国こどもとおとなの医療センター

○佐々木健介 松尾伸二 高津州雄

(5分)

症例は生後1ヶ月の女児。近医より脂腺母斑疑いで紹介され初診。

生後10ヶ月で全身麻酔下に切除術施行し、dermoid cystと診断された。

鼻根部 dermoid cyst の一例を経験したため、若干の文献的考察を含め報告する。

Section II (17:40~18:20) 座長： 四国がんセンター 時吉貴宏 先生

6. 指尖部完全切断に対する Composite Graft の一例

H I T O病院 形成外科

○米田武史

(5分)

症例は59歳女性。刃物のついた機械で、右中指、右環指を切断。ブロック麻酔下にてComposite Graftを行った。

移植片は生着しているが、術後2ヶ月のため指尖の萎縮や爪変形は不明である。

Composite Graftの適応や生着範囲、生着率を高める工夫などについて文献的考察を加えて報告する。

7. 左前胸部に発生した plaque-like dermatofibrosarcoma protuberans の 1 例

松山赤十字病院 形成外科

○山崎裕行 庄野佳孝

(5 分)

症例は 70 歳、女性。卵巣悪性腫瘍と右乳癌の既往あり。約 45 年前から左前胸部に褐色斑を自覚していた。緩徐に増大傾向であったため当院受診した際、左前胸部に $80 \times 25\text{mm}$ の境界不明瞭な柔らかい褐色斑を認め、褐色斑内部に米粒大の褐色結節が散在していた。生検で隆起性皮膚纖維肉腫が疑われたため、切除術を施行し上記と診断された。文献的考察を加えて報告する。

8. Malignant melanoma of soft parts の 1 例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○森 秀樹 村上達郎 三宅啓介 戸澤麻美 中岡啓喜

(3 分)

54 歳女性。3 ヶ月前より右頸部の皮下腫瘍を自覚。急速に増大するため松山市民病院形成外科受診し、生検にて悪性黒色腫と診断されたため、当科紹介された。術前の PET-CT では頸部腫瘍以外には有意な集積を認めず、頭頸部皮膚および鼻腔・咽頭にも明らかな原発巣を認めなかったため、腫瘍摘出術を行った。病理組織検査では Malignant melanoma of soft parts が示唆された。

9. 仙骨部褥瘡に対して局所陰圧閉鎖療法と穿通枝皮弁を使用し軽快した 1 例

1) 愛媛県立中央病院臨床研修センター 2) 愛媛県立中央病院臨床研修センター 形成外科

○原 和也 1) 小林一夫 1) 中川浩志 2) 濱田裕一 2) 徳永和代 2) 尾崎絵美 2) 石野憲太郎 2)

(5 分)

症例は 43 歳女性。14 年前より頸髄腫瘍の術後より四肢麻痺で寝たきりであった。

約 2 ヶ月前に仙骨部に褥瘡が出現し近医にて加療を行っていたが、その後感染を伴い、ポケット形成を来したため、当科に紹介入院となった。入院時にデブリードマン施行し、翌日より局所陰圧閉鎖療法を開始した。良好な肉芽が形成した 3 週間で穿通枝皮弁により褥瘡の閉鎖を行った。術後は創部離開や感染なく 18 日目に転院となり経過は良好である。当科の治療方針も含め報告する。

10. 有茎腹直筋皮弁による乳房再建後に drawstring 法を用いて内側乳房下溝を再建した一例

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 形成外科

○時吉貴宏、河村進

(5分)

これまでに様々な方法が報告されているにも関わらず乳房再建において自然な乳房下溝の再建は簡単ではない。

今回我々は有茎腹直筋皮弁による乳房再建後に pedicle を通すトンネルのために dull になった内側乳房下溝を drawstring 法にて再建した症例を経験した。この方法は局所麻酔下で簡便に深い乳房下溝の再建が可能であり有用と考えられたため考察を交えて報告する。

総会（18:30～18:45）

特別講演（18:45～19:45） 座長：HITO 病院 形成外科 田中伸二 先生

「形成外科の過去と未来」

講師： 田岡病院 形成外科・創傷治癒センター長 中西秀樹 先生

共催： 松山形成外科医会、愛媛県医師会形成外科医会

愛媛形成外科研修会 総会（18：30～）

1. 次回研修会の日程
2. その他